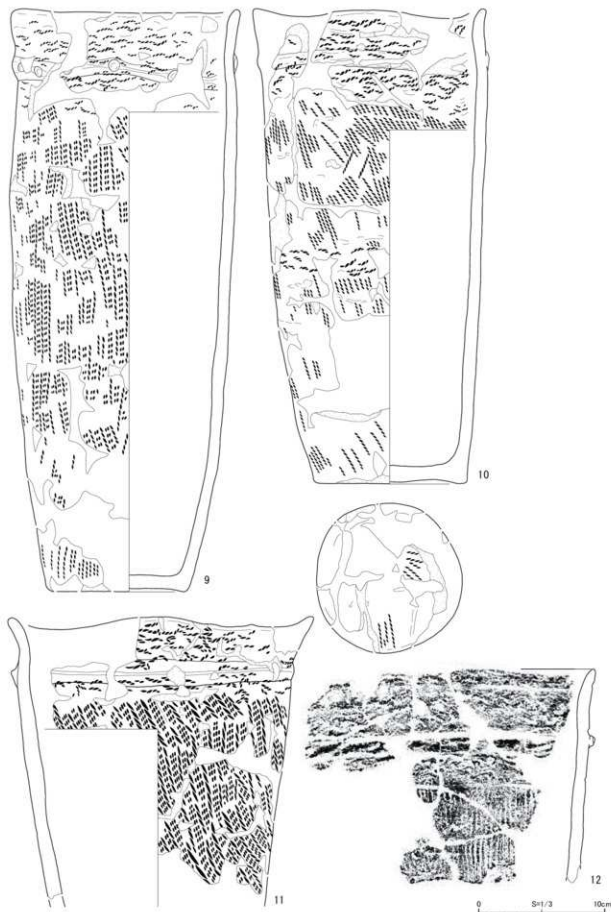
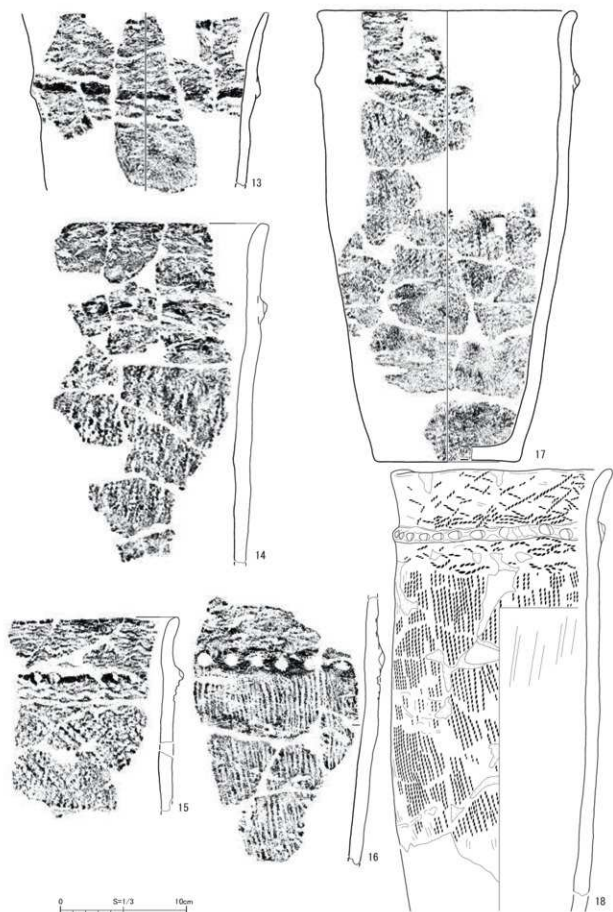
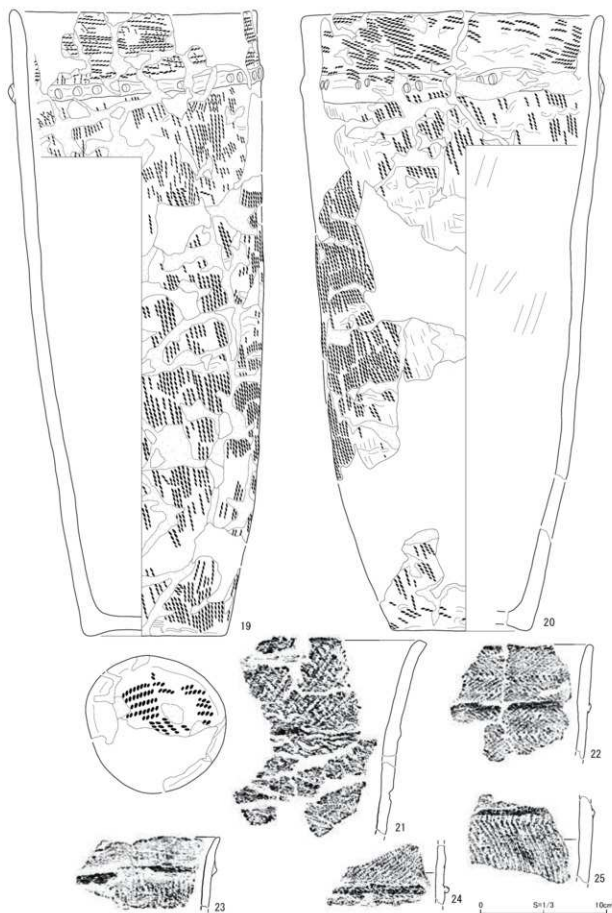




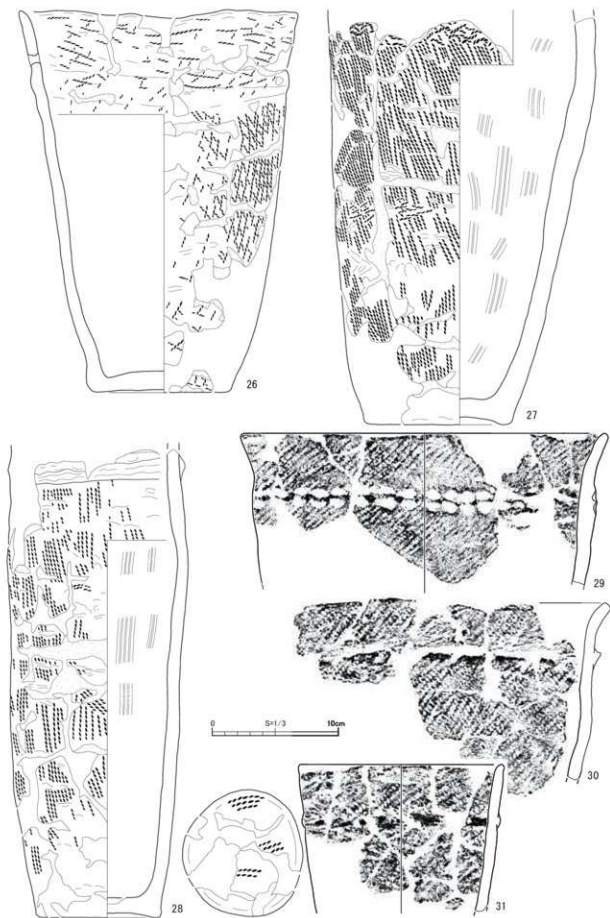
図VI-275 C3地区包含層出土土器(3)



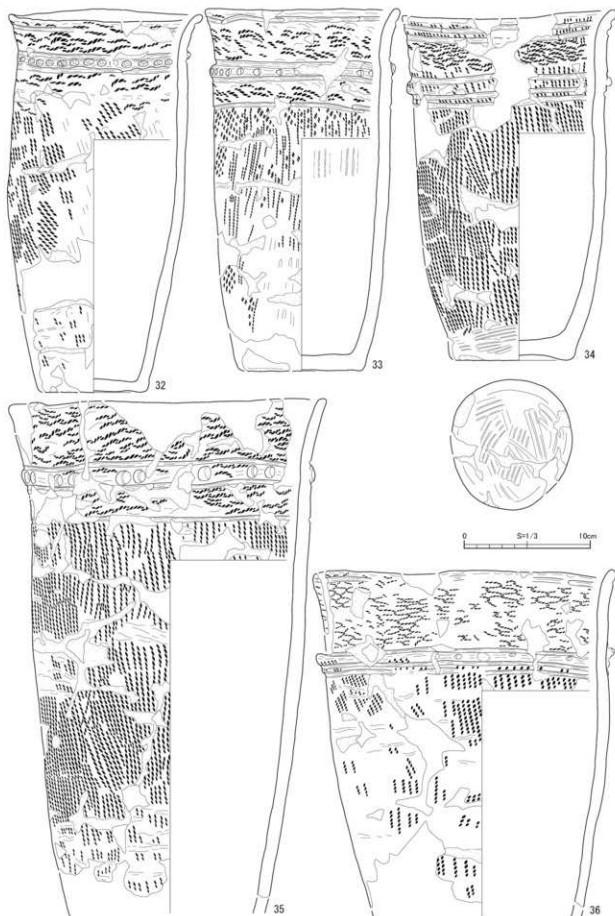
図VI-276 C3地区包含層出土土器(4)



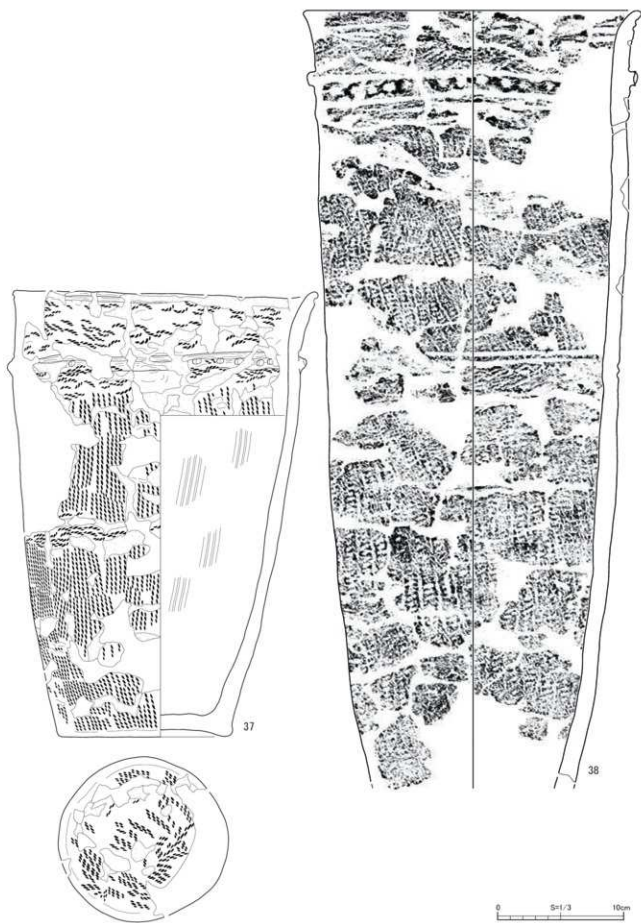
図VI-277 C3地区包含層出土土器(5)



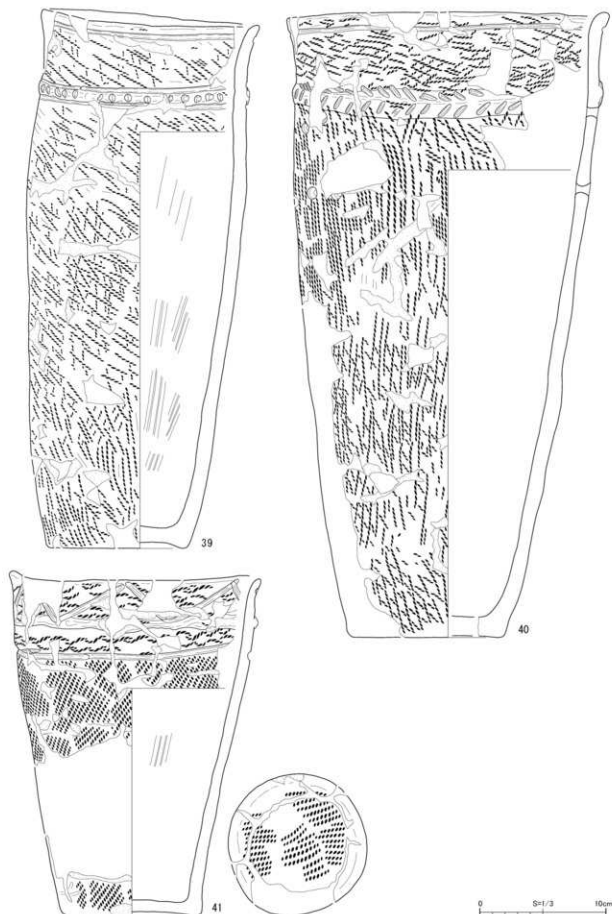
図VI-278 C3地区包含層出土土器 (6)



図VI-279 C3地区包含層出土土器(7)



図VI-280 C3地区包含層出土土器(8)



図VI-281 C3地区包含層出土土器(9)



図VI-282 C3地区包含層出土土器(10)

部分で異なるもの (33) があり、底部付近のみ貝殻条痕のあるもの (34) もある。器形・底部・内面の特徴は隆帯のみのものと同様である。

44～50 は口縁部区画帯が沈線のもの。2 本が主体 (44～47・49) で、3 本 (48)、条痕状の幅広のもの (50) がある。沈線は口唇直下に施されるもの (45・47) があり、49 は沈線間に円形刺突、45 は沈線の縦の区画とその交点に円形刺突、46 には低い波状口縁の波頂部下に 2 条の縄線 (左側縁で観察される) が加えられる。口縁部文様は単軸絡条体 1 (44・50)・5 (49)・6 (46) 類、LR 斜行縄文 (45)、不整綾絡文 (47・48) がある。胴部文様は単軸絡条体 1 類 (44～47・50) が多く、単軸絡条体 5 (48・49)・6 類 (46) があり、胴部上下で異なるもの (46) がある。器形・底部・内面の特徴は隆帯のみのものと類似するが、45・47 の底部はややすばまり、底角は張り出さない。

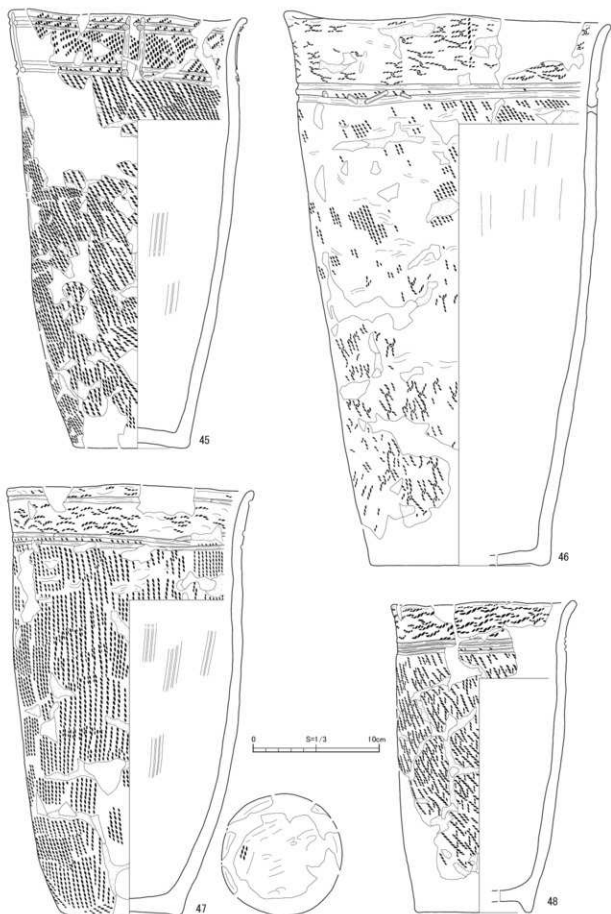
51～63 は口縁部区画帯や縦の区画が縄線のもの。口縁部区画帯は 1 条 (51・52・54・57)、2 条 (53・58・59・63)、縄線 1 条+沈線 1 条 (61) があり、縦の区画は 2 条 1 組 (55・56・60・61) である。やや高い波状口縁 (54・61・62) があり、61 は波頂部から 2 本 1 組の縄線が垂下し、口唇に沿って斜めに同様に 2 本 1 組の縄線が施文される。62・63 は撚りの異なる縄線がセットになる。口縁部文様は 51 が整然とした綾絡文、52 が単軸絡条体 3 類?、53 が結束第 1 種羽状縄文、54・57・58 が LR 斜行縄文、55・56 が単軸絡条体 5 類、60 が直前段反摺 RRL、61～63 が直前段反摺 LLR である。胴部文様は単軸絡条体 1 類 (51・53～56・58)、直前段反摺 RRL (59)・LLR (52・61・63)、斜行縄文 LR (57)、不明 (60・62) がある。器形は底部が張り出さずにすばまり、胴部は斜めにやや膨らみを持って立ち上がり、口縁部は滑らかに外反する。底面は平底やわずかな凹底が多く、底面の施文が無い。内面は貝殻条痕が見られず、丁寧に調整されるものがある。

64～77・79～83・85～88 は口縁部文様帯があるが、区画帯の無いもの。78 は上下で地文の異なるもの。84 は口縁部に無文帯がある。78～84 は直線的に斜めに立ち上がるバケツ形の器形。口縁部文様は 64～70・79 は不整綾絡文、71～75 は単軸絡条体 1 類、76・80～83 は貝殻条痕文、77 は口唇直下のみ単軸絡条体 1 類、85 は原体不明、86 は LR 斜行縄文、87・88 は縄線文である。72・74 の口縁部文様帯下部には原体端部の結節状の文様があり、区画帯のように見える。胴部文様は単軸絡条体 1 類 (65・66・68・69・71～77・80・85～88) が多く、RLR 縄文 (64・67)、LR 縄文 (65・66・84)、RL 縄文 (78)、多軸絡条体 (70・78・81～83)、異段合摺 (LR・R の R 撚り) 縄文 (79) である。胴部が上下で異なるもの (65・78)、部分で異なるもの (66)、帯状の不整綾絡文で上下に区画されるもの (68) がある。バケツ形は口縁部に貝殻条痕文、胴部に多軸絡条体、内面に貝殻条痕による調整痕が目立つ。器形は筒形とバケツ形があり、器形以外の底部・内面の特徴は隆帯のみのものと類似する。

89～94 は口縁部文様帯が無く、単一の地文のみのもの。文様は単軸絡条体 1 (89)・5 類 (94)、LR 縄文 (90・91)、RLR 縄文 (93)、異段合摺 (LR・R の R 撚り) 縄文 (92) と多様である。器形・底部・内面の特徴は隆帯のみのものと類似する。

95～104 は胴部から底部片。文様は 95～98・100・102・103 が単軸絡条体 1 類、99 が単軸絡条体 1 類を挟んで上下に多軸絡条体、101 が LRL 縄文、104 が原体不明、105 が LLR 縄文。器形・底部の特徴は隆帯のみと類似する。

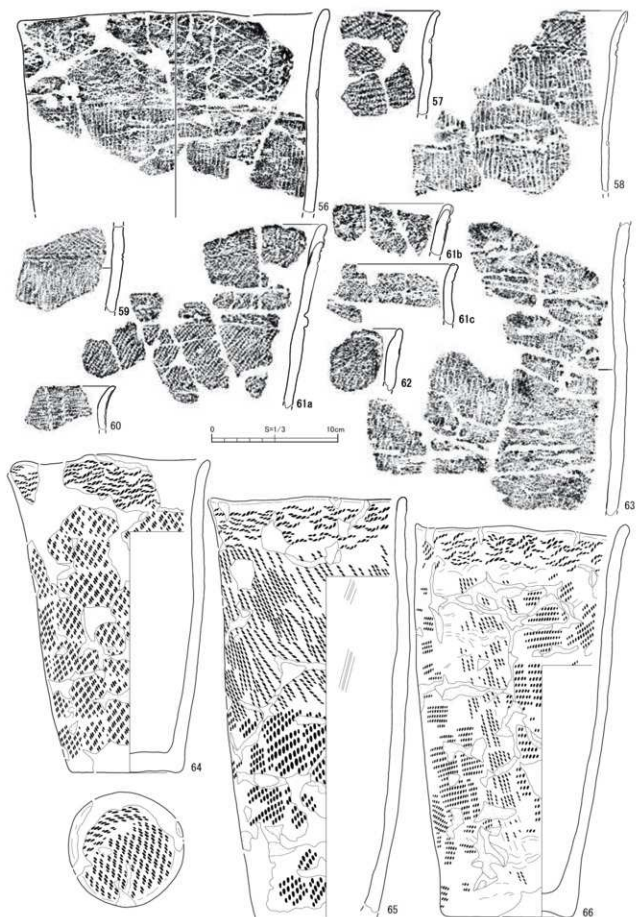
106 は円筒下層 d1 式。胴部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部はわずかにくびれて外反する。口縁部には縄線が上下の区画とその間に斜めの模様が施文され、口唇外面には LR 斜行縄文が施される。胴部は横方向の貝殻条痕を下地に、横環する結束第 2 種羽状縄文と縦走する L と R の 2 本 1 組の組紐状縄線に見える単軸絡条体 1 類が多段に施文される。内面はよく磨かれる。107 は円筒下層 d1 式。口縁部に L と R の縄線が交互に押捺され、その下位には結束第 1 種羽状縄文と縦走する自縄自巻縄文



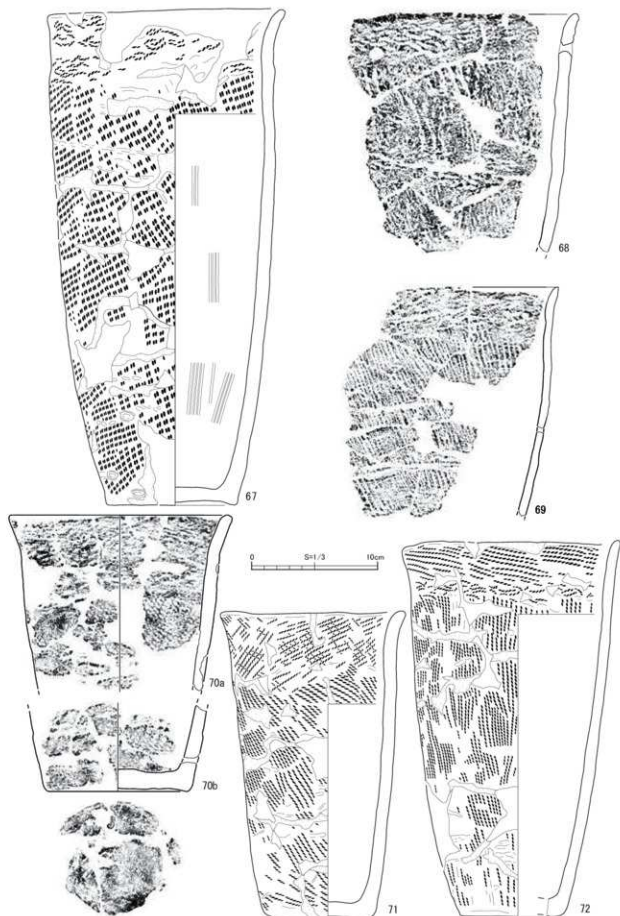
図VI-283 C3地区包含層出土土器(11)



図VI-284 C3地区包含層出土土器(12)



図VI-285 C3地区包含層出土土器 (13)



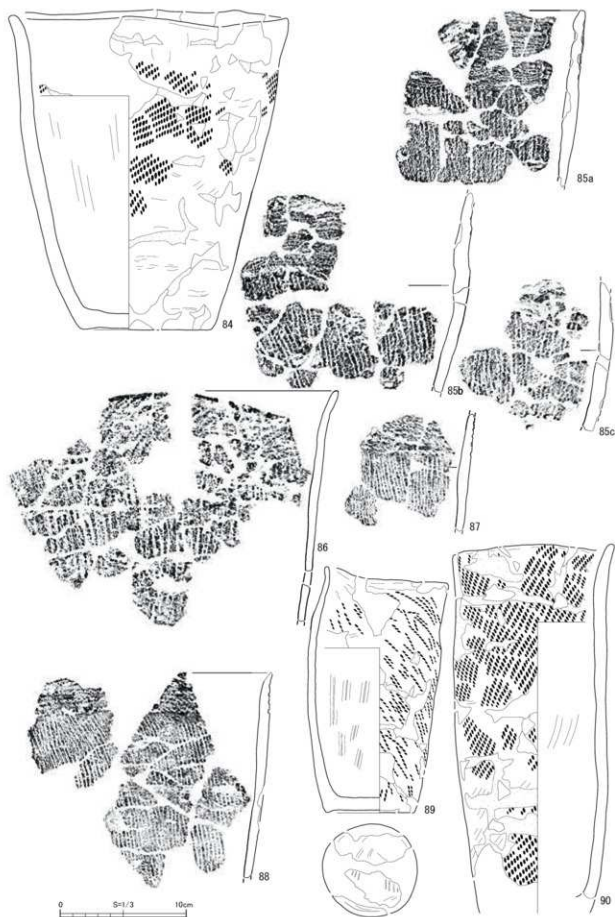
図VI-286 C3地区包含層出土土器(14)



図VI-287 C3地区包含層出土土器 (15)



図VI-288 C3地区包含層出土土器(16)



図VI-289 C3地区包含層出土土器(17)